図 18.19　環状弾性線維融解性巨細胞肉芽腫
(annular elastolytic giant cell granuloma)

図 18.20　肉芽腫性口唇炎（cheilitis granulomatosa）

肉芽腫性眼瞼炎（blepharitis granulomatosa）　MEMO

り返しながら，次第にゴム様の硬さに変化し腫脹が持続するようになる．

皺襞舌（すうへき）：口唇の腫脹と同時に舌も腫大し，表面の皺襞が著明となる．

顔面神経麻痺：頬部（きょうぶ）の腫脹に先行あるいは同時に，突然片側の末梢性顔面神経麻痺をきたす．再発と寛解を繰り返すうちに症状が固定する．

病因・病理所見

病因は明らかではないが，歯科金属アレルギー，サルコイド反応などが示唆されている．病理組織学的には，初期では真皮全層のリンパ浮腫とリンパ球，組織球浸潤が認められる．慢性期ではリンパ球，類上皮細胞，Langhans（ラングハンス）型巨細胞からなる肉芽腫性病変を示す．

治療

対症療法的に抗ヒスタミン薬内服，ステロイド内服ないし局所注射が行われる．

5. 乳児殿部肉芽腫　granuloma gluteale infantum

乳児のおむつ接触部位（肛門周囲～殿部が多い）に一致して，類円形で 1 ～ 4 cm 大までの比較的硬い扁平隆起性，紅褐色の結節が多発する．ときにびらん，潰瘍を伴う．おむつを使用する高齢者にも出現する．糞便，尿，カンジダ感染などの慢性的な外的刺激によって発症すると考えられている．病理組織学的には，表皮肥厚と真皮内への多彩な細胞浸潤が認められる．刺激物の除去により数か月で自然消退する．